

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O191400522		
法人名	一般社団法人仁生会にしぼり		
事業所名	グループホームにしぼり神山・1階こもれび		
所在地	函館市神山1丁目25番9号		
自己評価作成日	令和3年3月10日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400522-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・例年行事開催時は近隣の幼稚園や小学校との交流を行い地域との連携を図っていますが、現在はコロナウイルス感染症拡大防止・予防の為自粛しています。日課の中で活動を無理強いせず利用者さんのできる事を促し、その人らしく生活する事で社会との関係が維持できていると感じています。また入居者にとってなじみのある環境を作れるよう努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR函館駅より車で30分程の閑静な住宅街に位置し、木造2階建てで周囲の環境に溶け込んだ落ち着いた佇まいである。1階には同法人が運営する地域包括支援センターが併設されている。運営母体である一般社団法人仁生会は西堀病院を中心に医療・介護サービスを提供しており、医療体制の充実が当事業所の特筆すべき点でもある。西堀病院から毎週往診があり、また歯科衛生士による口腔ケア指導も1か月に1度行われている。看護師とはいっても相談可能で24時間安心して適切な医療が受けられる。ケア面においても本人の趣味が継続できる様にケアプランにも反映させ、家族の協力を得ながら支援している。また、利用者の誕生日には千円の予算でプレゼントを用意するなど、心弾む工夫を日々の暮らしの中で積み上げて一人ひとりの思いに添った細やかなケアを行っている。家族にお小遣い報告をする際には担当職員が日頃の様子を綴った直筆の手紙も同封している。同法人のグループホーム同士の繋がりも固く、合同会議ではアイパッドの使い方を教え合ったり、ケアプランの書式を統一する予定もあり、異動になってもスムーズに業務が出来る様に改善を加えている。管理者は働く環境整備に努め、家族の状況や子供の学校行事に合わせて休めるように勤務調整して臨機応変に対応している。離職率も低く定年退職後も働き続ける職員もいる。管理者・全職員が最高のチームワークで利用者のゆったりと穏やかな暮らしを温かく支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階こもれば)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を掲示し、理念の実現に向け利用者、個々の対応等必要に応じて改善し実行している。	開設時から事業所独自の理念を掲げ、事業所内に掲示したり、年度初めや新人研修時に説明している。	理念はケアサービスを提供する上で、職員が常に立ち戻る拠り所として重要であり、日頃から会議や機会あるごとに話し合い再確認しながら、具体的なケアについて意識統一を図り、理念を浸透させる取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために保育園や近隣の交流は行えていないが、間接的にプレゼント交換等の交流は行ってる。	感染症対策のため直接会う機会は少ないが、回覧板に事業所の情報を載せたり、七夕には地域の幼稚園にお菓子を届け、そのお礼に園長が敬老の日に合わせて来訪して、お遊戯会の様子などを収めたDVDを上映している。小学校からも学習発表会のDVDが届けられ、利用者は大喜びで繰り返し観ている。町内会とは様々な工夫をしながら今までと変わらない付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために会議は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために会議は行えていない。	感染症対策のため今年度は実施されていないが、家族には毎月担当職員の手紙を添えて近況報告をして、意見や要望ももらっている。遠方の家族にはアイパッドで撮った写真を直接送ることを予定しており、操作手順書も同封している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保健福祉部指導監査課へ相談や確認を行い適切な対応が出来る様に取り組んでいる。	行政とは介護保険の申請・更新手続きや入居相談、情報交換で顔見知りの関係となっていて、協力体制がしっかり構築されている。同じ建物に地域包括支援センターが併設されており、日常的に連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	令和2年2月 身体拘束適性化検討委員会を設置3か月に1度又は適宜 委員会を開催 身体拘束適性化の指針を整備し全職員へ周知 研修については(定期的に年2回)実施 参加状況の記録・研修資料等を保管	研修会は開催曜日と時間を決めて定期的に行い、記録はマニュアルと共に職員が自由に閲覧できる場所に保管して、理解の徹底を図っている。転倒などのリスクに対してセンサーの活用は検討を重ね、家族の同意を得て1か月を目処として使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外での研修会参加及び、各スタッフ間でも対応についてカンファレンスを行っている。		

グループホームにしほり神山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階こもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、研修会への参加資料の回覧等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族へは、納得するまで説明し、ご理解いただいたうえで契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書、利用契約書に記入してある苦情相談窓口について説明している。意見箱も設置している。	家族とは電話で連絡を取り合うことが多く、着替えや日用品などは今まで通り届けてもらっている。面会は感染症対策のため玄関でドア越しに行い、直接会うのは自粛している。遠方の家族から日頃の様子が知りたいとの要望があり、行事やレクリエーション時の写真に手紙を添えて報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月各階にてカンファレンスを行っている。スタッフと意見交換を行い情報共有している。	日頃から職員とはコミュニケーションを密に図り、またカンファレンスでも忌憚のない意見を表出できるように配慮している。子供の行事に合わせて休暇がとれる様に勤務を調整するなど働きやすい環境を整備している。職員が希望した場合は定年退職後も継続して勤務することができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて人事考課を導入している。個人目標を設定し達成できるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のためにパソコンでの研修が主になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、南北海道グループホーム協議会の研修会へ参加し職員の質の向上を目指し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階こもれば)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、対象者の要望、困っている事等を確認し安心しスムーズに利用出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っている事や不安に感じている事に耳を傾け不安なく生活できるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や本人と家族の希望を十分に理解し主治医と連携を図り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活である事を念頭に置き、共に出来る事、簡単な調理や洗濯物の片付け等々、日々の生活を送れるように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙に、本人の1か月の様子をスタッフから伝達している。行事開催予定の際は、事前に案内し一緒に楽しんで頂けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために外出の機会はほぼない。面会は玄関先やガラス越しでの対応。又は電話を利用している	知人と手紙の交換をしており、もらった手紙を繰り返し読んで大切にしている。受診の際には買い物や外食をしている。訪問の理・美容師はPCR検査で陰性を確認し、事業所と相談して1回に2～3人程の散髪やカットを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、入居者同士の関係を把握しながら入居者同士関わり合いながら、支え合えるように努めている。トラブルが起きない様、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階こもれば)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を解約された方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを基に本人意向の把握に努めている。実行表に本人の話した言葉を、そのまま記入して本人本位の視点になるよう努めている。	利用開始時に看取りに関する話をする利用者もいる。日々の生活の様子や発した言葉を記録して職員で共有し、ケアプランに活かして希望が叶うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中からや家族からの情報これまでのサービス利用の経過についてもセンター方式を使用し状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活の記録に記録し現状把握に努めている。またカンファレンスを月に1度行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が中心となり、他職員からも意見を求め作成するよう努めている。	担当職員がモニタリングをして、申し送りノートに記録した毎日の様子を基に、カンファレンスを繰り返して行って実態に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録用紙や申し送りノートに記録し日々情報共有している。また、カンファレンスにて意見を求めプランに反映するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体となる病院による、訪問診察や協力医療機関との連携を図り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために保育園や近隣の交流は行っていないが、間接的にプレゼント交換等の交流は行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を図り、適切な医療が受けられるよう医療連携を図っている。	全員「西堀病院」をかかりつけ医とし、毎週訪問診療が行われ、口腔ケアも毎日行われている。健康状態は看護師にファクスで報告して、連携を図っている。専門科受診は家族が同行して都度報告を受けている。急変時や相談事は24時間オンコール対応可能である。	

グループホームにしほり神山

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階こもれば)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週に1回訪問して頂き、状況を伝え、相談している。 24時間連絡可能な体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関との十分な情報交換を行い早期退院出来る様に取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族へは契約時に説明を行っている。 重度化した際に家族と話し合い十分な説明を行い医療関係者と連携し、共有し合い支援出来る様取り組んでいる。	重度化した場合やターミナルケアについては、本人と家族の希望を基に、事業所が出来得る最善の方法を家族、医師、事業所で話し合っ決めてることを趣旨とした説明を契約時に行い同意を得ている。職員の勉強会を繰り返し行い、看取りも経験しており、看取り後は振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内に急変時の対応マニュアルを掲示している。また、急変時・受傷時の対応方法ファイルがある。毎月のカンファレンスにおいても周知、徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。 法人にて事業継続計画(BCP)制定 行動計画にて対応出来る様、職員に周知している	事業所の避難訓練実施手順に基づいて自主訓練を1回実施して、通報手順確認と設備会社から消火器の取り扱い方法の指導を受け、訓練記録を作成している。防災マニュアルはいつでも閲覧できる場所に保管している。備蓄品リストや災害時食事メニューを作成し、それに基づいた食料を3日分備蓄している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った対応を心がけ、プライバシーを尊重し、損ねる事の無いよう職員間に周知している。	呼び方や声がけは慣れあいにならない様に礼節を重んじ、活動参加も本人の意思を大切にしている。入浴は基本同性介助とし、トイレも職員はドアの外で待っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせた対応を心がけ、自分の意思が表現しやすいような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースで生活出来る様にスタッフは心がけ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や整容等、本人の意思を尊重し支援している。		

グループホームにしほり神山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階こもれば)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために利用者と一緒に調理を行う事は現在控えている。	週に3回利用者と相談をしてメニューを決めている。味見や盛り付け、お茶入れ、テーブル拭きなどを手伝い、茶碗拭きは昼と夜で担当を決めている。誕生日はちらしずしや唐揚げなど好きなメニューにし、ケーキはトッピングを皆で行い、おやつもホットケーキを手作りして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を提供している。主治医へは、個々の水分や食事の摂取量等報告を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを見守りや介助で行っている。母体病院による、歯科衛生士による口腔衛生指導を毎月1度受けている。 又、協力医療機関の歯科往診をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し排泄の自立へ向けた支援を行っている。 出来る部分は、自分で行って頂いている。	自立している利用者もいるが、声かけや誘導することで全員布パンツで快適に過ごしている。排泄ケア委員会を立ち上げて、法人合同の研修会を実施して内容を全職員で共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立を提供しており、バランスの良い食事となっている。1日の水分摂取量を把握し支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後問わず入浴準備はしている。 出来る限り、本人の希望に沿い入浴出来る様支援している。	毎日浴槽に湯を入れて利用者の希望に添える様に準備している。ほとんどの利用者は週2～3回午後から入浴して、職員と会話を楽しみながらゆっくり湯に浸かっている。拒む利用者は時間を置いて声かけをしたり、基本的に同性介助にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の日々の希望や状態に合わせ休んで頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をカルテに綴じている。内容確認を行い周知徹底を図っている。 服薬時は必ず日付・本人である事を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるよう、日課の中で調理以外で出来る活動(洗濯、裁縫等)を見つけ役割を持ちながらメリハリのある生活を送れるよう取り組んでいる。		

グループホームにしほり神山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階こもれば)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所を散歩したりしている。また都合がつかるときは車で行きたいところを聞いてドライブに行く、買い物に行くなど支援している。	感染症対策の為、散歩や外出を自粛しており、玄関先で短時間の日光浴をする程度であるが、今後は花見や紅葉狩りなど分散しての外出を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状は、職員が管理しているが、ある程度金銭管理が行える方は、お小遣い程度の管理は行っている。買い物に行った際には、本人が支払している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人への電話は、希望時に出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、日々の状況に合わせ配慮している。四季や行事毎に飾り付けや、写真を掲示している。	オープンキッチンを備えた居間兼食堂は、高齢者に合わせて温度や湿度が適正に管理され採光も優れている。季節に合わせた装飾をし、随所に貼られた行事の写真をしながら職員との会話を弾ませている。一人ひとり思い思いの寛ぎ方があり、居間で音楽を聴いたり、居間で好きなテレビ番組を見たりして、ゆったり落ち着いて過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	主にリビングで交流したり、テレビ鑑賞等をして自由に過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけ、馴染みの物を持参され居心地良く生活出来る様に努めている。	居室入り口に名札や手作り品を飾って目印にしている。備え付けのクローゼットはあるが、使い慣れた衣装ケース、家具、テレビ、カーテン、仏壇を持ち込んでいる。お気に入りのぬいぐるみや家族の写真を飾り、園児からもらった写真も大切に、一人ひとりゆっくりと寛げる部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の出来る事、出来ない事を見つけ能力が発揮出来る様に、役割を見つけ自信や意欲向上に繋がるように日々取り組んでいる。		

グループホームにしぼり神山
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O191400522		
法人名	一般社団法人仁生会にしぼり		
事業所名	グループホームにしぼり神山・2階ひだまり		
所在地	函館市神山1丁目25番9号		
自己評価作成日	令和3年3月10日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400522-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・例年行事開催時は近隣の幼稚園や小学校との交流を行い地域との連携を図っていますが、現在はコロナウイルス感染症拡大防止・予防の為自粛しています。日課の中で活動を無理強いせず利用者さんのできる事を促し、その人らしく生活する事で社会との関係が維持できていると感じています。また入居者にとってなじみのある環境を作れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ひだまり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を掲示し、理念の実現に受け利用者、個々の対応等必要に応じて改善し実行している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために保育園や近隣の交流は行えていないが、間接的にプレゼント交換等の交流は行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために会議は行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症拡大予防・防止のために会議は行えていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保健福祉部指導監査課へ相談し適切な対応が出来るよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し議事録を職員で供覧している。また、法人内での身体拘束委員会にて検討、各職員へも伝達している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修会や外部の研修会に参加し、資料を職員間で供覧。また毎月カンファレンスを行い対応方法について職員間で話し合っている。		

グループホームにしほり神山

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ひだまり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加、資料を回覧し情報共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族へは納得するまで説明し、理解したうえで契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時や毎月送付する手紙に入居者の状況説明を行う等、情報交換をこまめに行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で業務改善について検討している。改善の内容によってはPDCAサイクルを使用し評価を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人にて人事考課を導入しており個々の目標を設定し達成できるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員に対してはチェックリストを使用し1年間フォローアップに努めている。また、研修参加を促しスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年南北海道グループホーム協議会の研修に参加し職員の質の向上を目指し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階ひだまり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との会話を通し、またご家族からの情報も取り入れながら不安な事やこまっている事を都度確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り困っていることや不安に耳を傾け、不安なく生活できるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人、前施設等より情報収集に努め、必要なサービスを提供できるよう話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力に注目し、自力で行えるところは自力で行ってもらい出来ないところを支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等ある時は随時家族へも連絡し一緒に楽しんでいただくよう取り組んでいる。また家族が面会に来所した際には現在は短時間であるが玄関のドア越しでの面会で時間を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣への散歩、知人の面会やなじみの関係が維持できるよう努めている。コロナウイルス感染症拡大防止のため外出は控えている為、手紙や電話での関係継続の支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは入居者同士の関係を把握し、状況に応じた対応を行いトラブルが起きないように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひだまり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに、契約を解約された方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いせず、本人の希望を取り入れるよう努めている。また各入居者に担当者を決めて本人に寄り添った対応をできるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や前施設からの情報や本人からの会話の中からセンター方式を使用し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の生活の記録用紙に記録し把握に努めている。またケアカンファレンスを毎月行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意向を尊重しつつ、スタッフや他職種からの意見を取り入れケアプランに反映するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録用紙に記録し、毎月のケアカンファレンスにおいてもスタッフ間で意見を出し合い、ケアプランに反映するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体となる病院による訪問診療や口腔ケア指導、リハビリ課による身体評価等、また他の協力医療機関と連携を図り取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事内容によりボランティアの方々に参加していただいており、地域交流に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と連携を図り定期的な往診の他、必要場合は受診をする等重度化する前に対応できている。また他科受診の際は家族の付添をお願いしている。		

グループホームにしぼり神山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひだまり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回訪問してもらい状態報告している。24時間連絡可能な体制をとっている。また往診時担当看護師へ相談しやすい環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と十分な情報交換を行い、本人が安心して治療できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族へは契約時に説明を行っているが現在までそのようなケースはない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応としてマニュアルを掲示し周知徹底を図っている。また詳細を記載したマニュアルと必要と思われる入居者の個別対応マニュアルをファイルで綴じて保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており、様々な時間を想定し取り組んでいる。また防災マニュアルを作成し、毎月のカンファレンスで職員間で再確認している。非常用備蓄品の確認も定期的に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の対応を心がけており、プライバシーを尊重するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別の対応をし、自分の意志が表現しやすいような支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースで生活できるようスタッフは心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や整髪など本人の意思を尊重し支援している。		

グループホームにしほり神山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひだまり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分で活動していただき、一緒に楽しく生活できるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立を提供している。また主治医へは水分量の報告など随時連携を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを実施している。また月に1度歯科衛生士の指導をもらっている。協力医療機関の歯科へも往診をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導ではなく、個別の排泄パターンを把握し排泄の自立へつながるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による献立を提供しており、バランスの良い食事になっている。水分摂取も1日トータル量を把握し支援している。また、状況により下剤や坐剤で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に確認をとったうえで週に2回以上入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の日々の状態に合わせて休んでいただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬マニュアルに沿って服薬管理を行っている。薬の情報をカルテに綴っており内容を確認しながら周知徹底を図っている。服薬時は必ず与薬日時と本人である事を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中はテレビを観たり、新聞や雑誌を読んだり塗り絵をしたり等本人に合わせた活動を行っている。		

グループホームにしほり神山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ひだまり)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルス感染症拡大防止・予防のため外出は控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状は職員が管理しているが、ある程度金銭管理が行える方は管理するよう支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や家族等へ希望時は電話出来るように支援している。また家族の支援のもと友人や家族等と手紙のやりとりを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に応じた飾り付けや、行事等の写真や広報誌を掲示している。常に環境整備に努めており居心地良く過ごせるよう配慮している。また、感染対策の為定期的な換気や室内の消毒なども行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	環境整備を行い、個々の思い思いに過ごせるような居心地の良い空間作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時はできるだけ馴染みの物を持参していただき居心地良く生活できるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況により他職種にも相談し入居者の出来る事・出来ない事をみつけ能力を発揮できるように役割を担い、自信や意欲の向上に繋がるようケアプランにも取り入れ日々取り組んでいる。		

目標達成計画

事業所名 グループホームにしぼり神山

作成日：令和 3年 4月 20日

市町村受理日：令和 3年 4月 21日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1・1	【理念の共有と実践】 職員が常に立ち戻る場所として理念を浸透させる必要がある為。	理念に沿ったケアの実践につながるよう職員への意識付けを図る。	カンファレンスを通して理念の理解や共有を行いケア方法についての意識統一を図る。	12か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。